AIT ワークショップの 20 年を振り返って

本学とタイのアジア工科大学院大学（Asian Institute for Technology: AIT）の交流プログラムの歴史が 2021 年で 20 年を迎えた。人であれば成人になるほど育ったことに感慨無量である。私が 2002 年秋に研究協力員として初めてジェンダー研究所を訪ねた時、ジェンダー社会科学専攻の院生たちが AIT に行ってきた体験談を楽しく話していたことを覚えている。後に「AIT ワークショップ」と呼ばれ、お茶大と AIT の院生たちにとって海外フィールドワークを経験しながら互いに学べる貴重な機会を提供するプログラムとなった。

本プログラムの設立は AIT の教員である日下部京子先生の呼びかけがきっかけであった。日本政府の開発援助資金を活用した、「ジェンダーと開発」分野における日本〜タイの研究交流プログラムを提案いただいたのである。当初は開発とジェンダー分野の第一線で活躍している日本の研究者をタイに招聘して AIT の院生たちに講義や研究指導を行うプログラムと、院生間の国際交流とが実施されていた。後には院生交流を中心に行われ、AIT の院生たちは日本で、日本の院生たちはタイで、短期滞在しながら学ぶプログラムとして定着した。ジェンダー研究所はプログラムの窓口として院生たちの受け入れや送り出しをサポートしてきた。私自身、お茶大に着任して間もなくの頃、ジェンダー研究センター長（当時）の足立眞理子先生と AIT を訪問する機会をいただき、AIT キャンパスの国際的な雰囲気と学生たちの高い研究意欲に感銘を受けた。

この 20 年の間には困難に直面した時もあった。日本政府から AIT への援助が縮小され、AIT の院生が日本に渡航するための補助金がなくなったのである。そのためお茶大側が「英語によるサマースクール」に参加する学生対象の奨学金を出して、渡航を支援したこともある。その後、幸いにも本プログラムの意義を大学に認めていただき、限られた予算ではあるものの安定的に支援いただくことで、プログラムを維持することができた。その他にも、タイで洪水があった年や東日本大震災など、通常通りのプログラムを実施できなかった時もあった。2020 年からは新型コロナウィルスによる海外渡航の中止によって、オンライン交流に切り替わっている。

本プログラムが困難を克服して 20 年を迎えられたのは、多くの人々に支えられてきたからである。創設からこれまでの歴代 IGS の教員、元 JICA の田中由美子さん、本プログラムの一部として実施されている大学院科目フィールドワーク方法論並びに国際社会ジェンダー論演習を担当してくださった高松香奈さん、板井広明さん、平野恵子さん、元 UNESCO 職員の菅野琴さん、そして毎年ファシリテーターを務めたドクター院生たちと IGS のスタッフの手厚いサポートがなかったら実施は不可能だった。この場を借りて深く感謝の意を表すとともに、今後海外渡航が再開され本プログラムがさらに発展していくことを祈りたい。

2022 年 3 月 17 日　IGS 教授　申琪榮

目次

第 1 部　AIT ワークショップ 20 周年記念シンポジウム 1
「シンポジウム企画経緯」 2
「国際協調におけるジェンダー平等目標――ジェンダー主流化の実践」 5
「お茶大―AIT ワークショップを振り返って」 11
第 2 部　AIT ワークショップ 15
テーマ一覧 15
2001 年度ワークショップ 16
2002 年度ワークショップ 18
2003 年度ワークショップ 20
2004 年度ワークショップ 22
2005 年度ワークショップ 24
2008 年度ワークショップ 28
2009 年度ワークショップ 30
2010 年度ワークショップ 32
2011 年度ワークショップ 34
2012 年度ワークショップ 36
2013 年度ワークショップ 38
2014 年度ワークショップ 40
2015 年度ワークショップ 42
2016 年度ワークショップ 44
2017 年度ワークショップ 46
2018 年度ワークショップ 48
2019 年度ワークショップ 50
2020 年度 52
担当教員・コーディネーター　一覧 53

第１部　AIT ワークショップ 20 周年記念シンポジウム

「シンポジウム企画経緯」[1]

板井広明
（お茶の水女子大学ジェンダー研究所特任講師）[2]

2021 年 2 月 1 日にオンライン開催した国際シンポジウム「開発・教育・ジェンダー（Development, Education, and Gender）」は、国際研究交流事業 AIT ワークショップの 20 年目を記念したものである。

AIT（アジア工科大学院大学）ワークショップは、ジェンダー研究所が提供するプログラムで、ジェンダー研究所の前身であるジェンダー研究センター（IGS）時代の、2001 年度に始まった。IGS の教員と AIT の日下部京子教授とが中心となって、お茶大の院生と AIT の院生との研究交流、およびそれぞれの学生による日本とタイでのフィールドワークを主なプログラムとして行なわれてきたワークショップである。

2004 年 12 月には、お茶大と AIT との間で、ジェンダーと開発領域に関わる大学間学術交流協定が結ばれており、現在、AIT ワークショップは、この協定に基づいて、ジェンダー研究所（IGS)と AIT 環境資源開発研究科が窓口となって運営されている。

お茶大側のプログラムとしては、ここ数年定型化したパターンでは、前期に大学院「フィールドワーク方法論」を履修してフィールドワークの方法の習得や実践、AIT 院生の日本滞在のサポートや研究交流、夏にお茶大からの補助を受けてバンコクへ渡航して行なうフィールドワークや研究報告、後期は大学院「国際社会ジェンダー論」を履修して外部講師や IGS のセミナーへの参加、帰国報告会実施と報告書作成というものである。

シンポジウムが開催された 2020 年度は夏頃まで、AIT の日下部教授とワークショップ実施を模索したものの、新型コロナ感染症の感染拡大の影響で中止せざるを得なかった。しかしワークショップ開始 20 年目にあたるので、オンラインでのセミナーやシンポジウムを企画する運びとなった。

AIT ワークショップ運営に関わっていた教員（申琪榮教授、大橋史恵准教授、板井、日下部教授）で内容を詰め、ワークショップを体験した院生や外部講師に登壇してもらうべく調整した。外部講師は、申教授の紹介で、NPO 法人Gender Action Platform 理事の大崎麻子氏に「国際協調におけるジェンダー平等目標――ジェンダー主流化の実践」と題する講演をお願いし、充実したプログラムが実現した。

---

[1] 2021 年 2 月 1 日（金）国際シンポジウム「開発・教育・ジェンダー」開催された。これは、ジェンダー研究センター（現ジェンダー研究所、以下、IGS）がアジア工科大学院大学（AIT）と連携して始めた国際教育プログラムである AIT ワークショップが、2020 年度で 20 年目となることを記念したもので、本稿は講演原稿を再構成したものである。

[2] 所属・職位はシンポジウム開催当時。

AIT ワークショップの実施には、IGS と AIT の各教員・事務スタッフ、コーディネーターとして大学院後期課程ジェンダー学際研究専攻の院生の協力が欠かせないが、今回のシンポジウムも、卒業生を含めて、多くの方々の協力によって成立したことを最後に感謝とともに記しておきたい。

「国際協調におけるジェンダー平等目標――ジェンダー主流化の実践」[3]

大崎麻子

（NPO 法人 Gender Action Platform 理事・関西学院大学総合政策学部客員教授・

兵庫県豊岡市ジェンダー・アドバイザー）

AIT ワークショップ 20 周年、おめでとうございます。本日は、ジェンダー平等と女性のエンパワーメントという国際社会共通の目標、つまり、国際公共政策のインプリメンテーションに従事する実務者という立場でご報告いたしますが、この文脈においても、タイと日本の間での研究及び教育の交流は、今後、重要性を増していくのではないかと思います。

1945 年以降、つまり、第 2 次世界大戦後の国際協調の基盤は、国連です。そこで共有されている理念が国連憲章と世界人権宣言です。この２つの文書で掲げられている理念を国際的な協力を通じて実現していこうというのが、過去 75 年の歩みです。「男女平等」もその理念の一つです。国連憲章と世界人権宣言が採択された 1945 年、48 年当時は、男女平等という理念と、多くの国々の現実・実態には大きな乖離がありました。現在に至る約 75 年間は、そのギャップを埋めるプロセスだったと言えるでしょう。その一環で、さまざまな枠組みが構築されてきました。1979 年の国連女性差別撤廃条約、1993 年の女性に対する暴力の撤廃に関する宣言、1994 年のカイロ国際開発・人口会議行動計画に位置づけられた性と生殖の権利（リプロダクティブライツ）。2000 年には、安全保障理事会の歴史で初めて、女性とジェンダーに特化した決議、安保理決議 1325 号「女性、平和、安全保障」が採択されました。紛争下における女性の保護と安全保障・平和構築におけるジェンダー主流化が謳われています。直近では、2015 年に採択された持続可能な開発目標、SDGs があります。日本でも、SDGs バッジを付けている人がたくさんいますが、この SDGs が、国連宣言と世界人権宣言を源泉とする枠組みであるということをご存じの方は、残念ながら少ないように思います。

現在、「ジェンダー平等と女性と女の子のエンパワーメントの実現」が国連加盟国 193 カ国がコミットしている、国際社会共通の目標です。1995 年の第４回世界女性会議で採択されました。日本では、ジェンダー平等が「男女共同参画」と訳されています。そして、女性、女の子のエンパワーメントは、「女性の地位向上」や「女性活躍」という言葉が使われています。しかしながら、このエンパワーメントというのは、自己決定権の確立と、それを行使するために必要な力を身につけるプロセスを指しており、女性の自己決定権の確立・行使、つまり、人権に根差した考え方です。そのニュアンスの違いが国際的に見たときの日本の取

[3] 本稿は、国際シンポジウム「開発・教育・ジェンダー」講演原稿を再構成したものである。

り組みの遅れにつながっているのではないかと思います。

1997 年に、ジェンダー平等を実現するための手段・戦略として、「ジェンダー主流化」というアプローチが国連経済社会理事会（ECOSOC）で定義づけられ、開発援助の現場における実践が始まりました。ジェンダー平等の視点というものを全ての政策領域、そして、政策・事業に関連するあらゆるプロセスの全ての段階にしっかりと入れていくということをいっております。私は国連の開発機関である UNDP に 1997 年に入局したのですが、当時、UNDP にはジェンダー主流化の手法を確立すること、それを各国で実施できるようさまざまなサポートを行うことがミッションとして与えられました。最初の数年間、試行錯誤した記憶がございます。しかしながら、安保理決議 1325 号に象徴されるように安全保障の分野、そして、気候変動、感染症、防災といった、一見ジェンダーに中立に見える政策領域でも、ジェンダー視点の主流化が進んでいます。また、その傾向は、SDGs でジェンダー平等がどのように位置付けられているか、SDGs の前の枠組みであるミレニアム開発目標（MDGs）とどう違うかを見るとよくわかります。

MDGs の日本での認知度は、SDGs に比して非常に低かったのですが、開発とジェンダーを研究されている皆さんはご存知かと思います。MDGs は、2000 年に当時のコフィ・アナン国連事務総長の働きかけで開催された国連ミレニアムサミットで採択された「ミレニアム宣言」をベースにしています。宣言で謳われたビジョンを開発途上国で実現するための最初の一歩、最低限の一歩として、８つの目標が設定されました。それが MDGs です。私が当時勤務していた UDNP が MDGs の旗振り役としての役割が課されました。私が働いていた開発政策局がまさに担当部署になったのですが、MDGs に対する当初の反応は極めて悪かったのです。どういうことかといいますと、世界の首脳たちがコミットしたのはミレニアム宣言というものであり、それはビジョンステートメントとして素晴らしいものでした。ところが、それを実行に落とし込むための MDGs という枠組み、８つの目標は、国連の本部がつくってしまったのです。８つの目標の中には「ジェンダー平等と女性のエンパワーメント」が含まれていましたが、ターゲットとして掲げられていたのは「教育」のことだけだったのです。つまり、教育における男女格差を解消すれば、ジェンダー平等と女性のエンパワーメントが達成できるというようなつくりになっていて、当然のことながら、世界中の女性団体、NGO から大変なお叱りを受けました。その後、ターゲットに「政治参加」を付け加えたり、各国で MDGs を取り入れていくときに、ローカルの文脈で重要なターゲットを盛り込んでいく、というような取り組みを行いました。

その反省を受けて、SDGs は参加型でつくられました。UNDP が中心になり、世界中で 3 年近くかけて多様なステークホルダーとの対話を行いました。日本でも開催されました。NGO、研究者、労働組合、民間企業、女性団体などが集まり、持続可能な世界に転換するためには何が必要かを多様な視点からの議論・検討を重ね、最終的に国連のハイレベルパネルを通じて集約したのが、SDGs です。８つの目標に比べて、17 もの目標が設定されているのは、多様なステークホルダーの意見が反映されているからだと言って良いでしょう。ジェン

ダーに関しても、女性団体、NGO、研究者が多くのインプットを行いました。それは、SDGsのゴール５の６つのターゲットを見れば明らかです。性差別の撤廃、私的・公的空間での女性に対する暴力の根絶、無償ケア労働の再分配、性と生殖の健康と権利など、重要な項目が含まれています。また、MDGs は、「女性のエンパワーメント」を掲げていましたが、SDGs は「女性と女の子のエンパワーメント」となっています。成人女性はもちろんのこと、女の子、特に思春期の女の子たちに注目しています。背景には、この年代の少女たちが性的搾取や性暴力に遭いやすいということ、この時期に教育をしっかりと受けることがその後のエンパワーメントにもつながることが共通理解になったからだと言えるでしょう。

SDGs の全体像を見ると、「ジェンダー平等」がいかにこの枠組みの中核的な目標かがわかります。2015 年の持続可能な開発サミットで 193 カ国の首脳がコミットした「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」という文書。これがいわゆる「SDGs」です。この文書は前半で理念や実施原則が、後半で 17 の目標と 169 のターゲットが記載されています。前半部分が実はとても大切なのですが、冒頭の前文に「このアジェンダ（SDGs のこと）は、すべての人々の人権を実現し、ジェンダー平等とすべての女性と女の子のエンパワーメントを達成することを目指す」と謳われています。つまり、ジェンダー平等と女性・女の子のエンパワーメントは、SDGs の「目的」として位置付けられているのです。さらに読み進めますと、「新たなアジェンダの実施において、ジェンダーの視点をシステマチックに主流化していくことは不可欠である」とあり、ジェンダー主流化が SDGs の「実施原則」である、それ無しでは SDGs の達成はできないと言い切っているのです。大変残念なことに、日本では、この点が全く理解されていません。そして、最後に、ジェンダーに特化した「単体の目標」として、ゴール５があるわけです。

SDGs の取り組みにジェンダー視点を主流化する際に、まず重要なのは男女別データとジェンダー統計、そしてジェンダー分析です。男女別データを見たときに、男女間でギャップがあれば、それがどのような要因で生まれるのかを分析し、それをベースに政策や事業を策定するということです。また、政策策定や方針決定過程に女性が参画する、つまり、男女が参画できるようにするということです。データの活用と、参画の担保、それがセットです。SDGs は「誰一人取り残さない」というスローガンを掲げていますが、これは、格差と不平等の解消を意味しています。これまでの世界が、人口の半分を占める女性を取り残してきた、という反省があります。だからこそ、男女別データに注目することが重要視されているのです。また、限られた資源を有効に活用するためには、エビデンスに基づく政策を策定することが重要です。現状・実態を把握する際に男女別データとジェンダー統計を活用し、ジェンダー分析を行うことが、より実情に即した取り組みにつながるのです。

直近の例として、新型コロナウイルス感染症対策、つまり、パンデミック対応におけるジェンダー主流化があります。2020 年に世界的な感染拡大が始まったとき、国連のグテーレス事務総長は早い段階で、各国の政府に対して、「女性と女の子をコロナ対応の中核に据えなければならない」と強く呼びかけました。コロナ による社会経済的影響に対処するため

の全ての取り組みに「ジェンダー視点を主流化すること」を強調しています。

これを受けて、内閣府男女共同参画局は「コロナ 下の女性への影響と課題に関する研究会」を立ち上げました。このパンデミックが男性と女性にどのような異なる影響を及ぼすのか、特に女性に特有の問題・ニーズは何かを検証し、どのような政策対応が必要かを提言するのが目的です。構成員は１０名で、私もその一人です。この研究会は、構成員は男女半々でした。私のようなジェンダーの実務者や女性の健康の専門家に加え、著名な経済学者や民間のエコノミストが数名、入っています。どの国でもそうですが、主流の政策領域の一つが「経済」です。ですから、経済政策にいかにジェンダーの視点を主流化するか、それがとても重要なわけです。この研究会の目的の一つとして、ジェンダーや女性の専門家と、経済の専門家が一緒にデータや統計を見たり、現場で支援活動をする NPO の報告を聞いたりすることで、いかに経済政策にジェンダーの視点が必要なのかを経済学者、エコノミストに理解してもらう、というという事もあったかと思います。実際、この研究会は、新型コロナウイルスパンデミックが男女に同じ影響を及ぼすのではなく、女性や女の子に異なる影響が出ている、その背景に平常時の経済・社会に構造化された性差別や性別役割分業の問題がある、ということを確認するプロセスとして機能しています。

SDGs を契機に、ジェンダー平等の推進に取り組む主体も多様化しました。従来の国際機関・政府・NGO に加えて、企業や金融機関や教育機関も重要なプレーヤーになっています。そうした流れの中で、環境・社会・経済のサステナビリティ（持続可能性）には、ジェンダー平等が不可欠だという考え方が急速に広まっています。G7 サミットや G20 サミットのような、グローバル経済の安定化というものを一義的な目的とした国際協調プロセスの中でも、2018 年に両方のサミットの首脳宣言に「ジェンダー平等」が初めて明記され、それ以降、毎年、より具体的でより優先的な格好でコミットメントが表明されています。また、G7 に関しては、「気候変動」「エネルギー」「安全保障」などの項目でも、「女性特有」のニーズや課題が言及されるなど、宣言自体のジェンダー主流化も見られます。さらには、首脳宣言各国の進捗状況を互いにモニタリングするための枠組みもでき始めています。また、金融資本市場でも、ESG 投資が近年急速に拡大しています。企業に投資をするときに、従来のように収益などの財務情報だけを手がかりに判断するのではなく、その企業が「環境（Environment）」「社会（Social）」「ガバナンス（Governance）」にどのように取り組んでいるのかといった非財務情報も精査して投資をする、という動きです。この中では、「社会」と「ガバナンス」のところで、ジェンダー平等の進展度が一つの重要項目になっています。世界中の企業が、積極的に、男女間賃金格差や役員会の男女比率を開示しています。欧米では賃金格差の開示を義務付ける法律を施行し始めた国も出てきています。また、アジアでも、シンガポールやマレーシアや台湾では、コーポレートガバナンスコードを強化することにより、上場企業の情報開示を促しています。この動き、つまり、投資判断におけるジェンダー主流化は、今、この瞬間にも進んでいます。

ジェンダー平等の推進という政策目標は、先進国、途上国の括りを超えて学び合えるテー

マです。各国がどういう手法で、どういう取り組みを行なっているのか、どんなことがうまくいったのかというようなことを情報共有することが重要であり、タイと日本の交流はとても意義があることだと思います。また、ジェンダー平等の推進には、研究者の方々の力が不可欠です。国際的な目標を各国で、草の根で、現場に落とし込んでいく、その過程において、今後もさまざまな形で皆さまのご知見をお借りしたいと思っております。ご清聴ありがとうございました。

「お茶大—AIT ワークショップを振り返って」[4]

日下部京子
（AIT 教授）

アジア工科大学院（AIT）のジェンダーと開発学専攻はお茶の水大学のジェンダー研究センターと 20 年にわたり学生・教官交流をしてきました。AIT 学内でも、この交流プログラムは最も長く続いているものです。他の交流プログラムが予算の関係または人事異動などで途絶えてしまう中、20 年も続いたのはこのプログラムがどれだけ愛されていたかの証拠だと思います。この度、20 周年の記念誌が出されることになったのは、非常に喜ばしいことです。

アジア工科大学院（AIT）は 1959 年にタイ・バンコクに設立されました大学院大学です。アジア各国からの学生を対象にして、英語での講義を行っています。当初はアジアにおける工学科、特に土木関係の技術者養成を目的として東南アジア条約機構（Southeast Asia Treaty Organization – SEATO）が設立しました。初めは土木を中心として工学科だけだったのが、1970 年代になると、アジアの開発のためには工学のみでなく社会科学も必要だという認識が高まり、社会科系の学科も増えました。1990 年代には、アジアの経済社会開発において、ジェンダー視点は欠かせないという理解が進み、ノルウェーの援助でジェンダーと開発学専攻が作られることになりました。初めは小さなプロジェクトとして始まったものが、ノルウェーのみでなく、オランダや日本からのサポートも受け、独立した専攻として 1997 年に開講しました。ジェンダーと開発専攻設立に先立ち、カリキュラム作成をする過程で様々な国からジェンダーの専門家を招聘してカリキュラム作成ワークショップを実施したのですが、その際にはお茶大から原ひろ子先生が参加してくださり、そのとき以来、継続してお茶大とのつながりを大切にさせていただいています。

AIT のジェンダーと開発学専攻は、その後日本政府の援助金によって、日本人教官が AIT に教えに来てくださったり、また、AIT から日本に学生を送ったりといった活動をすることが可能になりました。学生交流は初めは、東京大学社会科学研究所の大沢真理先生の研究室と行っていました。ところが、大沢先生が、研究室よりももっとジェンダーに関心のある学生が多く集まるところと交流をした方がダイナミックになると発案されまして、東大からお茶大に交流プログラムが移行しました。この経緯で 2001 年よりお茶大との交流プログラムが始まりました。

AIT の学生は、ほぼ全員何らかの奨学金を得てきています。そのおかげで様々な学生が集

[4] 本稿は国際シンポジウム「開発・教育・ジェンダー」講演原稿を再構成したものである。

まっています。自費で高等教育を受けることができないが、地域に密着した活動をして来た活動家や、所属団体からの支援でくる学生など様々なバックグラウンドの学生がいます。普通でしたら、このような学生たちが海外との交流プログラムに参加することは不可能なのですが、財政支援によって実施が可能になりました。初めは日本政府からの支援で実施していましたが、後にはお茶大からの支援で AIT がお茶大の学生を受け入れるだけでなく、AIT の学生もお茶大を訪問することができました。これは重要です。他の交流プログラムは、「対等」な交流という名目で、学費の相殺という形をとっているのですが、それでは、収入が少なく、物価が安い発展途上国の学生には不利に働きます。ほとんどの場合、このようなプログラムは一回先進国の学生を受け入れ、その後は続かないという結果になってしまいます。お茶大との交流が長く続いたのは、「対等」を費用の対等ではなく、機会の対等と考えて支援してくださった日本政府とお茶大の皆様のご慧眼の賜物です。

また、学生交流だけではなくて、教官交流も実施され、原ひろ子先生がカリキュラム作成ワークショップに参加してくださったのを皮切りに、伊藤るり先生が客員教官としていらしてくださったり、足立眞理子先生がセミナーを開いてくださったりしました。

お茶大のジェンダー研究センター(IGS)と AIT のジェンダーと開発学専攻（GDS）との交流は特徴的な面が色々あります。まず第一に、IGS と GDS は、双方とも初のジェンダー研究機関、高等教育機関であるということだと思います。つまり、IGS はご存じのように日本初のジェンダー研究センターであり、GDS はアジアで初のジェンダーと開発学で修士の学位を授与した専攻です。双方ともに初のジェンダー研究開発教育機関ということで、苦労や喜びを共有させていただいており、支え合ういいパートナーシップを構築しています。第二には、この交流が大学院生交流だということです。つまり、ただの海外体験ではなく、交流プログラムが自分の研究の一環として位置付けていることです。毎回、参加者は自分の研究テーマを持っていて、それに応じて毎年訪問先などが計画されます。このような大学院レベルの交流をさらに高めるため、学生の公開セミナーで研究発表会をし、専門家からコメントをもらう機会も設けました。AIT の学生もお茶大訪問で、日本の研究をするわけではありませんが、日本で得た知見を修士・博士論文に反映しています。第三には、この交流が AIT の中での日本との貴重な接点になっていることです。AIT は 40 カ国以上の国から学生が来ており、特に GDS ではどの国の学生が数的に多いということもなく、大変国際的です。その中で日本人学生は極めて少ない。この交流プログラムは AIT の学生が日本人学生に触れる大変貴重な機会です。

このようにして交流プログラムの歴史を振り返ってみますと、交流に対する考え方が国際援助という形から、相互の学び合いへと移ってきたと思います。つまり、初めは、日本政府の援助によって日本とタイの間を人が移動するサポート。発展途上国への技術援助の延長のような関係でした。それが、今では、もっとお互いにお互いの強みを生かすことによって、双方向の学び合いができています。このような変遷は、国際援助についての考え方の流れを反映していると思います。つまり、社会的投資の考え方で、「援助」をするのではなく

投資をすることで双方に新しい考え方や人材を産み、それが地球規模での社会的な発展となって皆が恩恵に浴す。この交流プログラムはその大きなうねりへの小さな貢献かもしれませんが、時代とともに変化していくプログラム性は評価されるものだと思っています。

今後とも、この交流プログラムが発展していき、ジェンダーと開発学の議論をさらに深め、先鋒となっていくことを期待してやみません。AIT では *Gender, Technology and Development* という学術ジャーナルを Taylor & Francis 社から発行しており、そちらへのご寄稿もよろしくお願いします。どうもありがとうございました。

第 2 部　AIT ワークショップ
テーマ一覧

- 2001 Gender and Development
- 2002 Gender, Work and Globalization
- 2003 Women, Globalization and Home-based Work
- 2004 Female Migrant Workers' Rights in Thailand
- 2005 Gender and Development in Thailand: Labor rights and violence against women
- 2006 No exchange program
- 2007 Gender, Rights and Empowerment
- 2008 Thailand-Japan Interactive Research Actions by Using Gender Perspectives
- 2009 Gender and Policy: Through Thailand-Japan Interactive Analysis
- 2010 Gender and Social Change: Comparative Analysis of Thailand and Japan
- 2011 Gender and Disaster held in Japan
- 2012 Sexuality
- 2013 Global Justice, Women's Health and Prostitution
- 2014 a) Sexuality, b) Gender and Poverty, c) Education and Empowerment
- 2015 Labor, Sexuality and Empowerment
- 2016 Labor and Association from Gender Perspective
- 2017 Sexual minority and migrant workers from gender perspectives
- 2018 Power and Sexuality from Gender Perspective
- 2019 Gender and Empowerment in Urban Space
- 2020-2021 no exchange program due to COVID-19 pandemic

2001 年度ワークショップ

Gender and Development

○参加者：加賀谷真梨・平野恵子・Brenda Tenegra

○日程：2002 年 3 月 5 日～15 日

日程	概要	
2002.3.5	バンコク到着	
2002.3.6	AIT での講義受講	“Concept of Gender Development, Women and Work”, “Gender, Culture and Society: Impacts on Institutions” 等
2002.3.7	AIT での講義受講 フィールドワーク準備	“Feminist Perspectives on Sex work”, “Status of Thai Women”等
2002.3.8	国際女性デーCelebration @AIT 移動	チェンマイへ移動
2002.3.9	移動	チェンマイ到着 Heuw Huey 村に移動（チェンマイ北部）
2002.3.10	フィールドワーク	Heuw Huey 村にてフィールドワーク
2002.3.11	フィールドワーク	Heuw Huey 村にてフィールドワーク NGO WEAVE 訪問
2002.3.12	各研究・支援機関訪問 移動	チェンマイ大学女性研究センター APWLD EMPOWER
2002.3.13	移動	バンコク到着 フィールドワークを踏まえて学生間での討論
2002.3.14	AIT で報告	
2002.3.15	帰国	

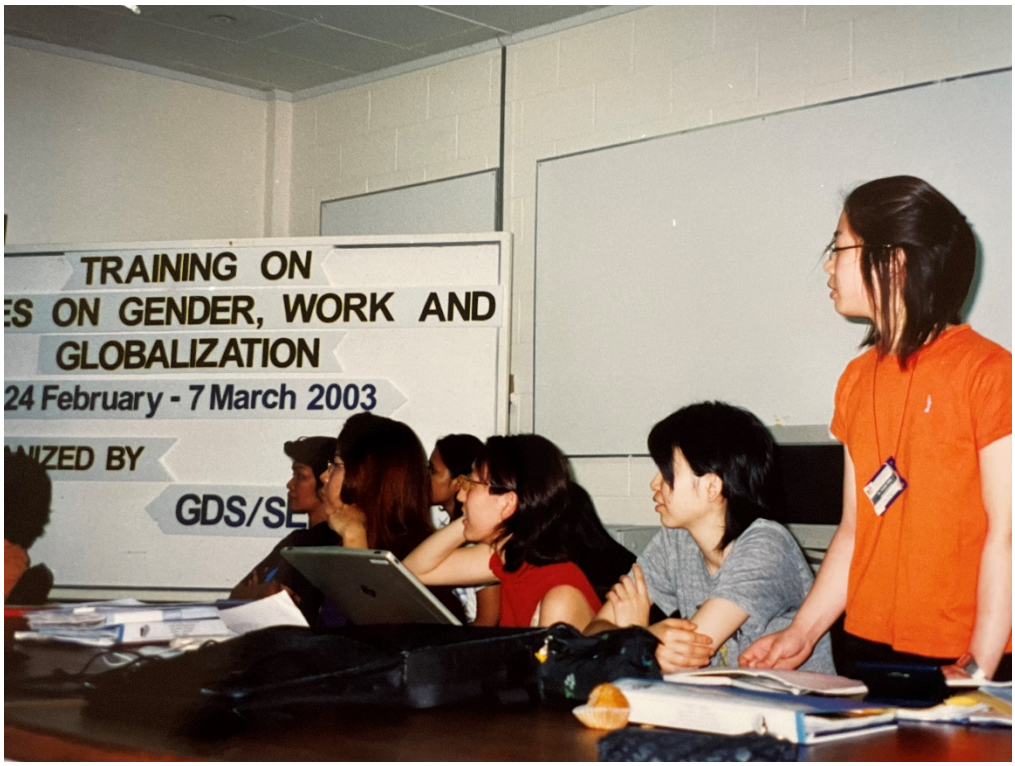
『国際協力における大学の役割――ジェンダー課題を中心に』報告書より転載

2002 年度ワークショップ
Gender, Work and Globalization

○参加者：金井郁・多田良子・田宮遊子・八田朋子

○日程：2003 年 2 月 23 日～3 月 8 日

日程	概要	
2003.2.23	バンコク到着	
2003.2.24	AIT にて講義 工場訪問	“Gender, Work and Globalization” “Gender, Employment and Skill Development”等 SEIKO の工場訪問
2003.2.25	AIT にて講義 移動	“Globalization, Work and Health” チェンマイへ移動
2003.2.26	移動 NGO 訪問	チェンマイ到着 APWLD (Organization for Asia and Pacific Women’s Leadership Development)
2003.2.27	研究機関・NGO 訪問	チェンマイ大学女性研究センター MAP (organization working for migrated women workers)
2003.2.28	NGO 訪問	MAP’s project sites
2003.3.1	NGO 訪問 移動	Friends of Women (Organization working for Women’s Legal Rights, Domestic violence EMPOWER (Women working in Sex industry) バンコクへ移動
2003.3.2	移動	バンコク到着
2003.3.3	ディスカッション	チェンマイフィールドワークを踏まえて学生間での討論
2003.3.4	NGO 訪問	Forward Foundation (Organization for home-based workers)
2003.3.5	NGO 訪問	CAW
2003.3.6	プレゼンテーション準備	
2003.3.7	プレゼンテーション	
2003.3.8	帰国	


TRAINING ON
ES ON GENDER, WORK AND
GLOBALIZATION
24 February - 7 March 2003
NIZED BY
GDS/SL

ส่วนร่วม
ในการ
ตัดสินใจ
ทุกระดับ
การเลิกจ้าง
ในการ
ตัดสินใจ
ทุกระดับ
ส่วนร่วม
ในการ
ตัดสินใจ
ทุกระดับ
3 8'03

写真提供：金井郁氏

2003 年度ワークショップ
Women, Globalization and Home-based Work

○参加者：落合絵美・合原由貴・中村雪子・村野祐子

○日程：2004 年 2 月 29 日～3 月 13 日

日程	概要	
2004.2.29	バンコク到着	
2004.3.1	法律協会訪問 AIT にて講義受講	Women Lawyers Association of Thailand “Thai Women”
2004.3.2	NGO 訪問 AIT にて講義受講 移動	Rainbow Sky Association of Thailand “Corporate Social Responsibility and Community Trade” チェンマイへ移動
2004.3.3	移動 NGO 訪問	チェンマイ到着 WAY organization
2004.3.4	研究機関訪問 移動 聞き取り調査	チェンマイ大学女性研究センター チェンマイ Don-Kaew, Mae-Rim 地区へ移動 コミュニティ開発に関する聞き取り
2004.3.5	移動 聞き取り調査	チェンマイ Ban Lai-Kaew, Doi-Tao 地区へ移動 カレン族 織物グループへの聞き取り
2004.3.6	聞き取り調査	カレン族 織物グループへのジェンダー役割に関する聞き取り
2004.3.7	協会訪問 移動 聞き取り調査	Northern Home-based Worker Network チェンマイ Ban Nong Kaew, Hang Dong 地区移動 木工・竹工製作グループへの聞き取り
2004.3.8	移動	バンコクへ移動
2004.3.9	移動	バンコク到着
2004.3.10	NGO 訪問	Global Alliance Against Trafficking in Women Committee for Women, HomeNet Thailand
2004.3.11	プレゼンテーション準備	
2004.3.12	プレゼンテーション	
2004.3.13	帰国	

写真提供：落合絵美氏

2004 年度ワークショップ
Female Migrant Workers' Rights in Thailand

○参加者：太田麻希子・大野聖良・西張由紀子・鄭奕

○日程：2005 年 3 月 6 日～19 日

日程	概要	
2005.3.6	バンコク到着	
2005.3.7	AIT にて講義受講 政府機関訪問	"Gender and Development Studies" National Human Rights Commission
2005.3.8	国際女性デー 市場訪問	TACDB and Mahachai seafood market（ビルマ人移住労働者が多く就労する）
2005.3.9	政府機関訪問 NGO 訪問	入国管理局 Committee for Asian Women
2005.3.10	NGO 訪問 財団訪問	GAATW（トラフィッキング） SWING Foundation
2005.3.11	移動 NGO 訪問	チェンマイへ移動 Lanna Women's Network
2005.3.12	市街観光	
2005.3.13	移動 NGO 訪問 移動	チェンライへ移動 Self Empowerment Program of Migrant Women チェンマイへ移動
2005.3.14	NGO 訪問	EMPOWER（セックス・ワーカー支援） Map（移住労働者支援）
2005.3.15	NGO 訪問 研究機関訪問 移動	APWLD チェンマイ大学女性研究センター バンコクへ移動
2005.3.16	移動 政府機関訪問	バンコク到着 Office of Women's Affairs and Family Development (Ministry of Social Development and Human Security)
2005.3.17	プレゼンテーション準備	
2005.3.18	プレゼンテーション	
2005.3.19	帰国	

参加者作成報告書より転載

2005 年度ワークショップ
Gender and Development in Thailand:
Labor Rights and Violence Against Women

○参加者：太田沙緒梨・小川真理子・近藤淳子・高崎三千代・田嶋志野・長田華子・冨田貴代子・李麗華

○日程：2006 年 3 月 5 日～18 日

日程	概要	
2006.3.5	移動	バンコク到着
2006.3.6	AIT にて講義受講 機関訪問	“Thailand and Fieldwork” 国連アジア太平洋経済社会委員会（ESCAP） 国際労働機関（ILO）
2006.3.7	機関訪問 移動	Foundation for women Swing Foundation チェンマイへ移動
2006.3.8	移動 NGO 訪問 研究機関訪問	チェンマイ到着 APWLD (＋国際女性デー イベント参加) チェンマイ大学女性研究センター訪問
2006.3.9	NGO 訪問	Homenet Chiang Mai
2006.3.10	NGO 訪問	EMPOWER SWAN (Shan Women’s Action Network)
2006.3.11	NGO 訪問 移動	Map Foundation バンコクへ移動
2006.3.12	移動	バンコク到着
2006.3.13	機関訪問	JICA Slum Women’s Network
2006.3.14	機関・NGO 訪問 インタビュー	Committee for Asian Women Burmese migrant workers Young Christian Workers Organization
2006.3.15	機関訪問 NGO 訪問	Office of Women's Affairs and Family Development, Ministry of Social Development and Human Security Thai Labour Museum GAATW (Global Alliance against Trafficking of Women)
2006.3.16	プレゼンテーション準備	
2006.3.17	プレゼンテーション	
2006.3.18	移動	

写真提供：杉橋やよい氏

写真提供：長田華子氏

2007 年度ワークショップ
Gender, Rights and Empowerment

○参加者：板場敦子・岡川真理子・土野瑞穂・森亜紀奈・山口綾香

○日程： 2008 年 3 月 2 日～15 日

日程	概要	
2008.3.2	バンコク到着	
2008.3.3	AIT にて講義受講 JICA 訪問	“Gender and Development in Thailand”, “Gender and Reproductive Rights in Thailand”, “Gender and Migration in Thailand” JICA バンコク・オフィス訪問
2008.3.4	国際機関・NGO 訪問	International Organization for Migration (IOM) Global Alliance Against Trafficking in Women (GAATW)
2008.3.5	国際機関・NGO 訪問	United Nations Population Fund (UNFPA) Planned Parenthood Association of Thailand (PPAT)
2008.3.6	NGO 訪問 移動	GEP American- Thai Research Group チェンマイへ移動
2008.3.7	移動 NGO 訪問	チェンマイ到着 Asia Pacific Forum on Women, Law and Development (APWLD) EMPOWER
2008.3.8	国際女性デー 研究機関訪問	チェンマイ大学女性研究センター
2008.3.9	市街観光	
2008.3.10	財団訪問 移動	Foundation for Health and Knowledge of Ethnic Labor (Map) バンコクへ移動
20083.11	政府機関訪問 NGO 訪問	Office of Women’s Affairs and Family Development (OWAFD) Japan International Center for Children’s Rights
2008.3.12	NGO 訪問	Raks Thai Foundation
2008.3.13	プレゼンテーション準備	
2008.3.14	プレゼンテーション	
2008.3.15	帰国	

参加者作成報告書より転載

2008 年度ワークショップ
Thailand-Japan Interactive Research Actions by Using Gender Perspectives

○参加者：赤谷まりえ・宿里円・庄野真代・深江裕美

○日程：2009 年 2 月 23 日～3 月 9 日

日程	概要	
2009.2.23	バンコク到着	
2009.2.24	AIT にて講義受講	
2009.2.25	国連機関訪問 NGO 訪問 移動	国連難民高等弁務官事務所（UNHCR） International Rescue Committee チェンマイへ移動
2009.2.26	移動 NGO 訪問	チェンマイ到着 EMPOWER
2009.2.27	研究機関訪問 NGO 訪問	チェンマイ大学 MAP Foundation
2009.2.28	移動	バンコクへ移動
2009.3.1	市街地観光	
2009.3.2	政府機関訪問 NGO 訪問	Office of Women's Affairs and Family Development Population and Community Development Association
2009.3.3	NGO 訪問	Betagro Office Rangsit Women Workers' Group
20093.4	NGO 訪問	International Center for Children's Right Rainbow Sky Association
2009.3.5	プレゼンテーション準備	
2009.3.6	プレゼンテーション	
2009.3.7	教会訪問	Christian Student Center
2009.3.8	国際女性デー 移動	帰国
2009.3.9	東京到着	

(registered) organization
• Yearly pride parade at a different local
• daily telephone counseling
• Capacity building for becoming peer-lea
active volunteers
• AIDS/HIV statistics rgd. MSM, MSW, &
• Absence of Female to Male Trans Ge
cept "lesbians") in Thai ?
Strength- networking, Weakness-confl
among each diverse group

写真提供：赤谷まりえ氏

2009 年度ワークショップ
Gender and Policy: Through Thailand-Japan Interactive Analysis

○参加者：松前圭子・富所涼子・ブドセン・タンヤポーン・八幡茜・吉田実・金喜淳
○日程：2010 年 2 月 21 日～3 月 7 日

日程	概要	
2010.2.21	バンコク到着	
2010.2.22	政府機関訪問 AIT にて講義受講	Bureau of Disaster Prevention and Mitigation, Ministry of Interior
2010.2.23	機関訪問 移動	日本商工会議所 JETRO（日本貿易振興機構） チェンマイへ移動
2010.2.24	財団訪問 NGO 訪問	MAP Foundation EMPOWER
2010.2.25	研究機関訪問 協会訪問	Lanna Polytechnical Chaingmai Technological School チェンマイ日本協会 チェンマイロングステイライフクラブ(CLL)
2010.2.26	インタビュー	Tambon Mae Ngon, Phang 郡
2010.2.27	フィールドワーク 移動	バンコクへ移動
2010.2.28	NGO 訪問	Pirdiphanomyoung センター（非正規滞在労働者の art exhibition） コリアンタウン
2010.3.1	AIT にて講義受講	
2010.3.2	政府機関訪問	労働省雇用局
2010.3.3	NGO 訪問 フィールドワーク	Rainbow Sky association セックスワーカーと面会、仕事の観察
2010.3.4	プレゼンテーション準備	
2010.3.5	プレゼンテーション	
2010.3.6	移動	東京へ移動
2010.3.7	東京島着	

写真提供：ブドセン・タンヤポーン氏

2010 年度ワークショップ
Gender and Social Change: Comparative Analysis of Thailand and Japan

○参加者：鈴木亜矢子・長野春子・平原紀子・前田順子・水上佳那子

○日程：2011 年 2 月 20 日～3 月 2 日

日程	概要	
2011.2.20	バンコク到着	
2011.2.21	AIT にて講義受講	“Gender Analysis & Gender-responsive development planning”, Gender & Health”
2011.2.22	政府機関訪問 NGO 訪問	Office of Women and Family Affairs (Ministry of Human Development and Social Security) JICA Association for the Promotion of the Status Women (ASPW) Friends of Women Foundation
2011.2.23	研究者へのインタビュー 企業家へのインタビュー	Dr. Chalidaporn K. Niyana Supapueng & Associate prof. Malee Pruekpongsawalee 中華系タイ女性工場オーナーへの聞き取り
2011.2.24	移動 NGO 訪問 研究者へのインタビュー	チェンマイへ移動 Asia Pacific Forum on Women, Law and Development (APWLD) Dr. Tanet Charoenmuang (チェンマイ大学)
2011.2.25	NPO 法人訪問 NGO 訪問 インタビュー	ADRA Thailand Bridging Education Access for Migrant (BEAM) 女性企業経営者、チェンマイ議会副議長へのインタビュー
2011.2.26	財団訪問 市街観光	MAP Foundation
2011.2.27	移動 プレゼンテーション準備	バンコクへ移動
2011.2.28	プレゼンテーション	
2011.3.1	バンコク観光 移動	東京へ移動
2011.3.2	東京到着	

参加者作成報告書より転載

2011 年度ワークショップ
Gender and Disaster

○参加者：スタンナード・ポリー・高田千尋

○日程：2011 年 12 月 22 日～2012 年 2 月 8 日（事前研修全 4 回）、2012 年 2 月 27 日～28 日（調査実習）、2012 年 2 月 29 日（公開ワークショップ）

	日程	講師	習得スキル	提出課題
説明会	12/22	第一回提出課題の説明	文献・インターネットサーベイ	
1 回	1/10	隕咲子（参議院事務局企画調整室調査員· 早稲田大学非常勤講師） 「3.11 大震災後の子どもの状況：東京における母子避難者支援」		
第 1 回補習	1/11		リサーチ・クエスチョンの検討	文献リスト、リサーチ・クエスチョン、希望訪問機関のリスト
第 2 回	1/23	池田恵子（静岡大学教授） 「『災害とジェンダー』研究の成り立ちと展開」	調査プランの検討、インタビューの設定、調査手法、インタビュー法	希望訪問機関のリスト、関係機関へのコンタクト（メール）
第 3 回	2/1		報告枠組みの検討	インタビューデザイン
第 4 回	2/8	丹羽雅代（女性の安全と健康のための支援教育センター運営委員） 「災害をジェンダー多様性の視点から考える」	PPT 、報告原稿の作成	報告要旨
調査実習	2/27	東京電力福島原子力発電所事故調査委員会（国会事故調）第 5 回傍聴（参議院議員会館講堂）	調査	
	2/27	インタビュー：増原裕子（レインボー・エイ）ド	インタビュー	
	2/27	インタビュー：蜂須賀證子（福島県大熊町商工会会長 ）	インタビュー	

ワークショップ	2/29		英語によるプレゼンテーション	PPT 原稿、報告原稿（完成版）

実施報告書より転載

2012 年度ワークショップ
Sexuality

○参加者：小川杏子・髙橋奈緒美・新見百代・李烏英嘎

○日程：2012 年 8 月 4 日～20 日

日付	概要	
2012.8.4	移動	バンコク到着
2012.8.5	市街地観光	Free day
2012.8.6	NGO 訪問	Visit Rainbow Sky Association Thailand and interview with TG
	インタビュー	Interview with TG from PC Air (1 person)
2012.8.7	政府機関訪問 インタビュー	The office of Women& Family Affairs Ministry of Human Development and Social Security Dr. Leuchai Sringemyuang, (Mahidol University), Interview Thai Transgender Alliance
2012.8.8	企業訪問	JFE Steel, Hitachi
2012.8.9	オリエンテーション	Meeting with Prof. Kusakabe and Orientation
		Welcome dinner at Ayutthaya and sightseeing
2012.8.10	移動 インタビュー	チェンマイへ移動 Ms.Virada Somswasdi （チェンマイ大学） Trade and investment service center, MOC, Chiangmai.
2012.8.11	機関訪問 NGO 訪問	Chaingmai Longstay Life Club Mplus Chiang Mai MSM（Men who have sex with Men）
2012.8.12	移動	バンコクへ移動
2012.8.13	観光	
2012.8.14	学会訪問 企業訪問	The Society of Aesthetic Plastic Surgeons of Thailand Siam Kirin Company
2012.8.15	AIT にて講義受講	“Gender and Development: Principal and Concept” “Gender, Urbanization and Urban Management”,
2012.8.16	AIT にて講義受講	“Gender and Development: Principal and Concept” “New Technologies and Gender”
2012.8.17	AIT にて講義受講	“Gender and Development: Principal and Concept”
2012.8.18	プレゼンテーション	

2012.8.19	観光	
2012.8.20	移動	東京へ移動

報告書より転載

2013 年度ワークショップ
Global Justice, Women’s Health and Prostitution

○参加者：阿部舞・中村千鶴・舩渡恵・山田朋果・李夢甜

○日程：2013 年 8 月 13 日～28 日

日程	概要	
2013.8.13	移動	バンコクへ移動
2013.8.14	政府機関訪問 協会訪問	Ministry of Social Development and Human Security 国立がん協会
2013.8.15	財団訪問	Forward Foundation
2013.8.16	NGO 訪問 政府機関訪問 NGO 訪問	Plan International Thailand Rak Thai Foundation Office of the National Human Rights Commission of Thailand ECPAT International
2013.8.17	自由行動	
2013.8.18	市街観光	
2013.8.19	AIT にてオリエンテーション	
2013.8.20	AIT にて講義受講	
2013.8.21	AIT にて講義受講	
2013.8.22	移動 NGO 訪問	チェンマイへ移動 PH-Japan Office EMPOWER
2013.8.23	NGO 訪問	MAP foundation Asia Pacific Forum on Women, Law and Development (APWLD)
2013.8.24	市街観光 移動	 バンコクへ移動
2013.8.25	プレゼンテーション準備	
2013.8.26	プレゼンテーション	
2013.8.27	移動	東京へ移動
2013.8.28	移動	東京到着

参加者作成報告書より転載

2014 年度ワークショップ
a) Sexuality, b) Gender and Poverty, c) Education and Empowerment

〇参加者：小林美歩・曹慧卓・シャチクリ・メルシャト・石洋柳・陳思羽

〇日程：2014 年 9 月 8 日～9 月 15 日

日程	概要	
2014.9.8	移動	バンコクへ移動
2014.9.9	NGO 訪問	Thai Transgender Alliance (Thai TGA) Forward Foundation
2014.9.10	NGO 訪問	Thai Health Promotion Foundation “Young Love” Campaign EMPOWER foundation
2014.9.11	NGO 訪問 AIT にて講義受講 プレゼンテーション準備	Office of Women Affairs and Family Development
2014.9.12	AIT にて講義受講	
2014.9.13	自由行動	
2014.9.14	自由行動	
2014.9.15	移動	東京へ移動

参加者作成報告書より転載

2015 年度ワークショップ
Labor, Sexuality and Empowerment

〇参加者：大類由貴・佐々木奈摘・高橋加織・松木香凛

〇日程：2015 年 8 月 16 日～24 日

日程	概要	
2015.8.16	移動	バンコク到着
2015.8.17	機関訪問 NGO 訪問	JICA Thailand Office Thanyaporn Reception Home for Girls
2015.8.18	機関訪問 NGO 訪問	ILO Asia and the Pacific in Thailand End Child Prostitute in Asian Tourism (ECPAT) EMPOWER Foundation
2015.8.19	機関訪問 NGO 訪問	Plan International Thailand Thai Transgender Alliance (TGA) Forward Foundation
2015.8.20	AIT にて講義受講	“Gender and Development: Principles and Concepts” アユタヤ見学
2015.8.21	プレゼンテーション	
2015.8.22	自由行動	
2015.8.23	移動	東京へ移動
2015.8.24	移動	東京到着

เรือนรักษ์ครุณี

CERTIFICATE
Ms. Yuki Ozeki
Ms. Natsumi Suzuki
Ms. Karin Matsuki

報告書より転載

2016 年度ワークショップ
Labor and Association from Gender Perspective

〇参加者：崎濱奏子・佐藤貴恵・矢萩まりこ・包夢真

〇日程：2016 年 9 月 10 日～17 日

日程	概要	
2016.9.10	移動	バンコク到着
2016.9.11	観光	
2016.9.12	AIT にて講義受講	「フェミニストはどのようにして調査にアプローチするか」
2016.9.13	AIT にてジョイント・セミナー	プレゼンテーション
2016.9.14	機関・NGO 訪問	JICA IOM Thailand Office EMPOWER Foundation
2016.9.15	NGO 訪問	Labor Protection Network
2016.9.16	機関訪問 移動	Thai Transgender Alliance（マヒドン大学） OXFAM Thailand Office 東京へ移動
2016.9.17	移動	東京到着

参加者作成報告書より転載

2017 年度ワークショップ
Sexual minority and migrant workers from gender perspectives

〇参加者：赤澤詠子・内山みどり・市川萌子・梁 藹文・Aerin Elizabeth Lai Jia Qi

〇日程：2017 年 8 月 27 日～9 月 3 日

日程	概要	
2017.8.27	移動	バンコク到着
2017.8.28	AIT にて講義受講	“Gender, Enterprise and Organization”
2017.8.29	お茶大-AIT Joint Seminar	
2017.8.30	機関・NGO 訪問	IOM Thailand Thai Transgender Alliance
2017.8.31	機関・NGO 訪問	Association for the Promotion of the Status of Women EMPOWER Foundation
2017.9.1	機関・NGO 訪問	Thai Breastfeeding Center foundation DuangPrateep Foundation
2017.9.2	観光 移動	 東京へ移動
2017.9.3	移動	東京到着

参加者作成報告書より転載

2018 年度ワークショップ
Power and Sexuality from Gender Perspective

〇参加者：近藤望・曾宇宸・永井萌子・笠原容・SOUKANNHA MECKHASINH

〇日程：2018 年 8 月 26 日～9 月 2 日

日程	概要	
2018.8.26	移動	バンコク到着
2018.8.27	AIT にて講義受講	“Gender, Enterprise and Organization”
2018.8.28	Ochanomizu - AIT joint Seminar	
2018.8.29	機関・NGO 訪問	IOM Thailand Forward Foundation
2018.8.30	NGO 訪問	Labor Protection Network EMPOWER Foundation
2018.8.31	機関訪問 NPO 訪問	ILO Thailand UNICEF Bangkok Rainbow
2018.9.1	移動	東京へ移動
2018.9.2	移動	東京到着

参加者作成報告書より転載

2019 年度ワークショップ
Gender and Empowerment in Urban Space

〇参加者：田中涼子・侯婷玉・宋怡・大竹あすか・譚穎・畢新雨・長谷川渚紗

〇日程：2019 年 8 月 25 日～9 月 1 日

日程	概要	
2019.8.25	移動	バンコク到着
2019.8.26	AIT にて講義受講	“Development and Sustainability” “Public Policy” “Gender and Development: Principles and Concept” “Rural and regional development course”
2019.8.27	Ochanomizu - AIT joint Seminar	
2019.8.28	機関・NGO 訪問	Central Thailand Mission Thai Transgender Alliance
2019.8.29	機関・NGO 訪問	Forward Foundation Women’s Education and Training Center (WE-TRAIN) of the Association for the Promotion of the Status of Women (APSW)
2019.8.30	協会訪問	Marketing Organization for Farmers SWING Foundation
2019.8.31	移動	東京へ移動
2019.9.1	移動	東京到着

参加学生報告書より転載

2020 年度
（COVID-19 パンデミックのためワークショップ開催無）

○AIT ワークショップ 20 年記念シンポジウム「開発・教育・ジェンダー」

【開催日時】2021 年 2 月 1 日（月）16:00~18:00

【会場】オンライン（zoom ウェビナー）開催

【報告】

板井広明（お茶の水女子大学 IGS 特任講師）

日下部京子（アジア工科大学院大学教授）

大類由貴（公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター プログラム・オフィサー）

ソン・チャンフイ（アジア工科大学院大学博士課程）

【講演】大崎麻子（NPO 法人Gender Action Platform 理事、関西学院大学総合政策学部客員教授、兵庫県豊岡市ジェンダー・アドバイザー）

【コメント】

高松香奈（国際基督教大学上級准教授）

大橋史恵（お茶の水女子大学 IGS 准教授）

【閉会挨拶】申琪榮（お茶の水女子大学 IGS 教授）

【司会】平野恵子（お茶の水女子大学 IGS 特任リサーチフェロー）

【言語】日本語・英語（同時通訳あり）

【参加者数】77 名

国際シンポジウム「開発・教育・ジェンダー」の様子

IGS ホームページより転載

担当教員・コーディネーター　一覧

（担当年度順・所属職位は 2022 年 3 月現在・敬称略）

〇歴代担当教員

伊藤るり（津田塾大学教授・一橋大学名誉教授）

杉橋やよい（専修大学教授）

荒木美奈子（お茶の水女子大学准教授）

市井礼奈（UNDP: International consultant/ SDG Finance Expert）

舘かおる（お茶の水女子大学名誉教授）

足立眞理子（お茶の水女子大学名誉教授）

申琪榮（お茶の水女子大学教授）

大橋史恵（お茶の水女子大学准教授）

板井広明（専修大学准教授）

高松香奈（国際基督教大学上級准教授）

平野恵子（お茶の水女子大学ジェンダー研究所特任講師）

〇AIT 担当教員

日下部京子（AIT 教授）

〇外部関係者

原ひろ子（お茶の水女子大学名誉教授）

村松安子（東京女子大学名誉教授）

大沢真理（東京大学名誉教授）

田中由美子（城西国際大学招聘教授・CSW 日本代表）

菅野琴（元 UNESCO ネパール事務所長・ユネスコ代表）

〇歴代コーディネーター

鳥山純子（立命館大学准教授）

中村雪子（日本学術振興会特別研究員 PD・横浜国立大学）

雑賀葉子（お茶の水女子大学基幹研究院研究員）

鈴木亜矢子（東京家政学院大学非常勤講師）

張瑋容（同志社女子大学助教）

ズザンナ・バラニャク平田（お茶の水女子大学大学院博士後期課程）

高橋加織（芸術文化観光専門職大学助教）

お茶の水女子大学—AIT（アジア工科大学院）ワークショップ

20 周年記念報告書

2022 年 3 月 31 日
発行：お茶の水女子大学ジェンダー研究所
編集：申琪榮・大橋史恵・平野恵子
編集協力：稲垣明子
表紙デザイン：伊奈瑠偉
印刷：キンコーズ